

イギリス・アイルランドの園芸の粋を訪ねる

鈴木 司

今回はかねてから見たいと夢見ていたエジンバラ王立植物園をメインとした企画だった。この案は2003年にドイツ・ロストック市で開催の国際園芸博覧会（IG A 2003）とエジンバラ王立植物園の視察を計画し、募集開始後、アジアのSARS騒ぎで急遽中止した案件を、会員の要望により再度、ドイツとアイルランドを入れ替えて新たに企画したものである。

日程は2004年6月27日(日)～7月5日(月)の9日間、参加者17名、旅行主催近畿日本ツーリストで行った。

6月27日(日)

ロンドン経由ダブリンへ

午前8時55分に全員集合。予定より少し遅れて、11時25分に英国航空（BA）で成田国際空港を発ち、ロンドン・ヒースロー空港に現地時間15時8分に到着した。ここでアイルランド航空に乗り換え、ダブリンに向った。離陸が大幅に遅れ、ダブリン市内のメスピルホテルに着いたのは21時30分という長旅になった。

6月28日(月)

ナショナル・ボタニック・ガーデン

ホテルを朝9時に発ち、開園早々に入園する。当園は1795年創立で200年の歴史がある。園内はよく整備され、鮮やかな緑と澄んだ空気に、彩り豊かな花があふれていた。ボーダー花壇にはペンステムン、フロックス、カンパニユラ等と、各種のハーブが植えられ、その先のロックガーデンにはアルペンフローラが咲き、小規模ながらバラ園も満開だった。中央に温室が連なり、食虫植物、洋ランをはじめ、種類は豊富で管理もよかった。園内には明るい広葉樹林があり、リスが飛び回っていた。

パワースコート・ガーデン

広大な土地をもつパワースコート伯の屋敷で、城館風の建物と広い庭園の形式の中世の姿を残している。このガーデンの設計はベルサイユ宮殿を模して造られたという。メインはイタリア式庭園で、左側奥に日本庭園、右側にはバラ園と見事なボーダー花壇が満開だった。ボーダーには冷涼な気候帯の花が粋を競っていた。

6月29日(火)

トリニティ大学図書館

午前にまず市内のトリニティ大学図書館に入館。紀元前800年にまとめられた世界的に貴重な「ケルズの書」4巻を拝観する。トリニティ大学は1592年、エリザベス1世の創立で、古典的宗教書20万冊収蔵の図書館に圧倒される。この後、同じく市内にあるセントパトリック大聖堂の庭を經由して、古いビールの名門ギネス社を訪れる。ギネス・ストアハウスの7階にあるグラビティパーブ名物の黒ビールを味わい、ダブリン市外の眺望を楽しむ。

午後、ダブリンから一旦ロンドンへ飛び、さらにスコットランドの首都エジンバラに行き、市内のラマダ・ジャービス・エジンバラホテルに宿泊する。

6月30日(水)

エジンバラ植物園

午前10時の開園を待って入園。集合時間を14時としてフリーに見学する。園内は新緑の芝生が美しく広がり、右手のルートを行くと大木の斑入りカエデをはじめ、明るい広葉樹の大木が林を作り、樹下の芝生にはローンデージーが可愛い。枝道に入るとメコノプシスの群落がやや盛りを過ぎた花をつけ、その先には桃、黄、紅、白のクリンソウの群落が咲き乱れていた。

さらに行くと、大規模なロックガーデンに導かれる。



王立エジンバラ植物園のロックガーデン

この旅の一番の目玉である。一步入ると、そこには巧みに設計された自然風の岩山と、隅々まで配慮して植えられたアルペンフローラの見事さに一同ため息をつきながら感動にひたる。ロックガーデンに満喫してから、ユリノキの大木の林辺の池のカモの親子を眺め、大温室に向う。

そこに先生に引率された30人ほどの幼稚園児がきた。欧米の植物園にはこのような子供たちが先生に連れられて熱心に植物や動物の観察をしている姿が見られる。幼少時のしっかりした自然観察の教育体系ができてきているようだ。

大温室は無料だが、入口に募金箱が置かれ、入園者は任意に小銭を入れている。展示植物は、キューに比べると物足りない。近くの芝生にアローカリアの大木が枝を広げており、北緯56度の地が信じられない気分となった。

アルペンフローラの温室があるのを見落とし残念。

7月1日(木)

パース周辺のガーデン廻り

9時にホテルを発ち、エジンバラから北のフィヨルド湾を渡り、パースに向かう。フィヨルド湾には日本人の渡辺カイチ氏設計という美しい鉄道橋が望まれた。沿道にはヤナギランの群落が紅紫色に咲いている。

・チェリーバンク・ガーデン

スコッチウイスキーのベル社が社員向きガーデンとして設けたヘザー(エリカ類)ガーデンで、緩やかに下る斜面に1,000種、55,000株が世界中から集められている。花の時期(8~10月)には早かったが、葉の色がカラフル。素晴らしいガーデンを完成させており、一見の価値があるガーデンとして推奨したい。

・ブランクリン・ガーデン

パース市街からTAY川を渡った所、植物を愛したレントン夫妻が作りあげたがガーデンを訪ねる。広さは2エーカーと大きくはないが、夫妻がプラントハンターに依頼して収集したヒマラヤ・中国地方の花々が豊富に植栽され、驚くほど多様な種類が美しい花を連ねて、見応えがあった。

・ドラumont・キャッスル・ガーデン

パース市の西方クリフの町にある。ドラumont・キャッスルは、この地方に広大な領地を持つドラumont家の居城で、戦乱を生き抜いた堅固な城郭には想像できないような見事な庭園がある。



ドラumont・キャッスル・ガーデン(スコットランド)

石の城門を入ると、右手約10mの城壁の下に大パノラマが広がり、一同声も出ないほどにしばし立ち尽くした。ここにはフォーマルガーデンの典型、究極のパーテマ(刺繍模様花壇)があり、しかも見事に管理が行き届き、チリーつない。1842年にビクトリア女王の訪問にあたって、造園家ケネディ親子が原型を作ったものという。城郭をバックにしたガーデンの美しさに、誰もが思わずシャッターを切っていた。

7月2日(金)

ブレッシingham・ガーデン

午前4時のモーニングコールで起き、エジンバラから空路ロンドンに9時過ぎに到着。だが迎いのバスがハイウェイの事故で未着。結局11時30分に出発。ロンドンの東北方向のノーフォーク地方の広々とした麦畑に輝くような菜の花畑が点在する中を走り、午後2時半に目的地のブレッシingham・ガーデンに着く。

ここはアラン・ブルーム氏が220エーカーの土地に宿根草と高山植物専門のナーセリを創設したもので、宿根草では世界有数のメッカといえる。そのモデ



ブレッシingham・ガーデンのコンiferのモデルガーデン

ルガーデンとして、約5,000種といわれる多様な宿根草と庭木を植え、素晴らしいガーデンを整備している。モデルガーデンは二つ、一つは宿根草を主体とした10区のガーデンで、色とりどりの花で埋まっていた。

もう一つは隣接して、子息のエイドリアン氏が、フォギーボトム・ガーデンとしてコニファー類と宿根草を組み合わせたものである。カラフルなコニファーガーデンに一同賛嘆の声を上げ、いつまでもリラックスしていたい気分を味わった。ナーセリーには豊富な宿根草類の苗と園芸グッズがあふれ、それぞれショッピングも楽しんだ。

ロンドンへの帰途、ケンブリッジ大学の街に立ち寄り、夕食をとってから、古い伝統ある大学の街並みや、ニュートンが万有引力を発見したゆかりのリンゴの木などを見学する。日本には見られない何やら威厳のある大学街だった。ロンドンのホテルは中心街のロンドン警視庁近くにあるジョリーセント・アミューズメントホテル。

7月3日(土)

シェークスピアの生地

ロンドンの西北方の国道40号線で、シェークスピアの生地ストラドフォード・アボン・エイボン町へ行く。この町はシェークスピアが生まれ、後半生に再び住んだ所で、花を楽しんで過したゆかりの庭が公開されている。庭には樹齢400年の桑の老木が葉を繁らせ、シェークスピアが愛したというバラ園と、娘の夫が医者とのことで、日本では禁止されているケシが紅、白の花を咲かせているボーダー花壇が美しかった。

ヒドコート・マナー・ガーデン

午後、有名なコッツウオルズ地方を通り、高台にあ

るヒドコート・マナー・ガーデンを訪ねる。ここはアメリカ人ローレンス・ジョンストンが30年の歳月をかけて独力で作りあげたガーデンである。200mに及びイチイの生け垣で仕切られた緑の芝生の道がメインとなり、両側に生け垣に区分されたホワイトガーデンやレッド、イエロー、パステルカラーなどのカラーガーデン、オールドローズ等のテーマガーデンを見ることができた。このガーデンはナショナルトラストに寄贈され、そこが管理している。

夜はホテルの近くのレストランで、恒例のさよならパーティーを開く。7日間の見学コースの楽しい話題でにぎやかな夕食会となった。

7月4日(日)

ウイズレーガーデンから帰国へ

最後の日は午前中にロンドン市内をバスで観光する予定だったが、参加者が相談して急遽変更。RHSのウイズレーガーデンを時間いっぱいまで見ることにした。9時の開園を待って入園。各自、自由に目的の花を求めて回ることになった。ここは第1回の花葉会の海外調査で訪れた所であり、14年の間に一層充実した内容となっている。

中央のボーダー花壇に始まり、ガラス室でコリウスとフクシアの品種展示を見学。次にアルペンフロアのガラス室を訪ねた。ここには満開の株が1鉢ずつベッドにきれいに配置されている。すべてをデジカメに撮ることができた。

ロックガーデンを降り、全員満足してバスでヒースロー空港に向う。そして全行程を無事終了し、帰国の途についた。



ヒドコート・マナー・ガーデン



RHSウイズレーガーデン